

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023 年 9 月 4 日

学部・学科名 現代国際学部国際教養学科

担当教員氏名 城月 雅大

1. プログラム名称	地域研究・国際研修プログラム
2. 渡航先国名	スイス、イタリア
3. 派遣期間	2023 年 8 月 17 日 (木) ~ 2023 年 8 月 31 日 (木) 15 日間
4. 派遣先教育機関名	サッサリ大学
5. 参加学生数	10 名
6. 派遣目的	観光を通じた地域再生方法について、専門的知識の獲得、海外フィールドでの調査研究、グループワークを通じて学生の国際的な学びを提供するため。
7. 派遣内容	派遣先はサッサリ大学となっているが、実際には、世界中の大学関係者、実務家が集まった研修で総勢 20 名を超える専門家によるレクチャー、指導が行われた。基本的には午前がレクチャー、午後がワークショップで、全日程の約 8 割は日をまたぐスケジュールで集中的な作業が行われ、学生にとっては非常に貴重な学びの機会となった。
8. 成果	上記の他としては、本学の海外留学プログラムの裾野の広さを学内外的に広報する材料にもなると思われる。特に、講師陣として参加する大学は世界的にも著名な大学が多く、連携の打診も受けており、国際交流協定はもちろん、さらなる教育研究の展開が期待できる。
9. 備考	

以上

2023年度地域研究・国際研修プログラム（スイス・イタリア） 帰国後レポート

研修中に学習した講義内容と大学での学びとの関連性について教えてください。

国際教養学科の、「英語を用いて専門知識を学ぶ」という特徴をまさに体現していた研修でした。自分の意見を英語で表現することに大変苦勞をしました。また、専門用語も頻出するので、英語で行われる講義を英語のまま理解するというスキルが必要であったと感じています。テーマでもあった、2040年のFusioについて、起こりうる災害のリスクは何があるのかを考慮しながら、この土地や地域の特徴を生かしてどのような成長が見込めるかをチームで意見を出し合い、ひたすら考えている時間が私にとって価値のあるものになりましたし、自身のまちづくりに関する研究にもつながっていくと思いました。同じ日本人であっても他大学の学生が自分の興味や関心に対して自由な環境で学んでいるという特徴を生かしていた点、また同じNUFSの学生同士でも普段興味のあり、学習していることは異なるので、そのような自分と異なるバックグラウンドや意見を持つ人たちと一つのテーマについて話し合い、プレゼンテーションとして落とし込めたところが個人的には良かったポイントのひとつです。

研修期間を通して努力したことと、その結果、何を得えたか教えてください。

私は、この研修で以下太字の3点の目標を持って取り組みました。

「**講義ひとつひとつを理解すること**」自分では完璧には達成できませんでした。自分が理解できなかったことをホテルに帰ってメンバーと共有し、疑問を解決することはできたので、そのおかげで授業の理解度をより深く高めることができました。「**質問をする**」専門知識が必要となる講義が多く、なかなか自分から発言できませんでした。とても後悔しています。しかし、私はこの目標を少しでも達成するために、専門知識が多く必要のないミュージアムなどを訪れた際に積極的にコミュニケーションをとったり、質問したりすることを心掛けました。やはり、質問をするということは自分が興味を持って聞いているということを示す一つのツールだと思うので、今後さらに大切にしていきたいです。「**授業で学んだイタリア語を使ってコミュニケーションをとる**」は、イタリア人の学生との会話やレストランで注文の際に使っていました。自分の片言なイタリア語も頑張って理解して下さり、そのやさしさに助けられました。

このように、なかなかうまくいかないことがほとんどで、精神的に辛くなってしまったこともありました。もう少し、自分の言葉で説明できればよかったと思うことや、自分の英語が思った以上に使えなかったなど後悔はたくさんありますが、時間を最大限に使って課題について考えた結果、そのプロセスを褒めていただいたことや、すべてのタスクが終わった後の達成感は何にも変えられ難いです。

個人的に成長できたと思う点は、まちを歩いていて出会った観光客の方に声をかけてインタビューをしたことです。その人たちの意見がきっかけとなってグループワークもうまく進められ、この行動が自分の自信となりました。私たちは、建築を勉強しているわけではないですし、このFusioというまちについて詳細に知っているわけではありません。だからこそ、私たちの使命は、観光客(日本人)だからこそできる提案をすることや、ステークホルダーの方々の意見を詳しく聞き、取り入れることだと思い、実践しました。とても有意義で、成長ができた2週間になりました。

2023 年度地域研究・国際研修プログラム(スイス・イタリア) 帰国後レポート

研修中に学習した内容と大学での学びとの関連性について教えてください。

私は今まで、本大学のグローバルビジネス学科の学生として外国語はもちろんのこと、経済や経営戦略について様々な座学を通して論理的知識を学んできました。これら経済や経営に関する知識は、フジオの地域創生において重要な役割を果たします。

例えば、経営戦略やマーケティングの知識は、フジオの特産品や観光資源を活用した新商品開発やイベントの企画・運営に役立てることができます。また、経済学や会計学の知識はフジオの産業構造や財政状況を分析し、効率的かつ効果的な事業を立案・評価するのに役立ちます。さらに、経済政策や金融政策の知識はフジオの雇用創出や資金調達などに関わる施策や制度を活用することに役立てることができます。

このように私が研修中に学習したことと、大学で学んだ経営・経済に関する知識は、深い関連性があり、地域の発展に大いに貢献できると言えます。

研修期間を通して努力したことと、その結果、何を得たか教えてください。

本研修の事前説明会で“地域復興”というワードを聞いたとき、私は今までに大学で学んだ知識を絡め、企業側や投資家など地域の外側の立場から、“稼げる地域創生”について考え、フジオの地域復興に努めたいと考えていました。しかし、城月先生の事前講義で、「地域創生とは何か」や、「地域活性化とは誰がどのような尺度で決定するのか」についてディスカッションを行った結果、地域を創生するうえで大切なことは、地域に根強く関わるステークホルダーに受け入れられる“地域の未来像”を考えることであると気づかされました。以上のことを踏まえた上で、現地に赴き、地域創生研修に挑みました。研修期間中に私は主に2つのことに焦点を当て尽力しました。1点目は、英語がうまく言葉に出せなくても、積極的に思いを口にすることです。研修前半の私は、英語が流暢に話せない自信のなさから、積極的に話し合いに参加できずにいました。しかし、周りの研修参加生が綺麗に英語にまとめられていなくても、自分の思いを積極的に相手に伝えようと努力している姿を見て、感化されました。研修後半では、他国から来た研修参加生や現地の人々と積極的に交流し、意見交換をすることができました。2点目は、フジオ人々の声に耳を傾け、その人々が何を思い、感じているかを知る努力をしました。自分もフジオで生活し住民の声に耳を傾けることで、短期間ではありますがステークホルダーの一員となることで、地域復興に向けて、彼らの利害も解決できるような方策を見いだすことができました。

2023 年度地域研究・国際研修プログラム(スイス・イタリア)

帰国後レポート

研修中に学習した講義内容と大学での学びとの関連性について教えてください。

「まちづくり」には様々な要素があり、それぞれの角度から考えなければならないことを学びました。今回の研修先であるフジオは、中心部から車で約 1 時間かかる自然が溢れる場所でした。フジオの大きな特徴としてダムがありました。

講義では、フジオの歴史や災害に対するリスク管理、都市計画におけるプロセス、景観など様々な視点からまちづくりを行う上で必要な情報を得ることができました。研修の最終的な目標は、「今後のフジオの未来を考え、提案を行う」というものでした。実際に、町の中を散策したり、ダムを訪れたりと外へ出かけフィールドワークを行ったことで、講義で得た知識をよりインプットすることができました。さらに、講義だけでは知ることのできない住民の様子や、町の雰囲気などを知ることができました。最終プレゼンテーションでは、提案の結果、どのような人たちがどういった恩恵を受けることができるのかまで考えて提案することができて良かったです。

プログラムの中で、実際の住民の方々に質問する機会がありました。質問を通じて住民の方々は現状の生活に満足しており、大きな変化を望んでいない印象を受けました。なので、「現状の生活の中で必要としていることはありますか。」と伺ったところ、交流の場が無くなったことで所属意識が低下してしまっていると回答を受けました。私は現在、子どもの交流の場の形成を研究テーマとして取り組んでいます。私は、今までコロナ禍で交流の機会が減少しているから交流の場を作ろうと活動を行って来ました。しかし、今回の最終プレゼンテーションのようにその活動を行った後のことを考えていませんでした。それを考えるには、状況を知ることが必須であると感じます。そのために必要なことは、今回の研修で学ぶことができました。今回学んだことを活かして今後の研究を深めて行きたいです。

研修期間を通して努力したことと、その結果、何を得えたか教えてください。

研修期間を通じて、私が努力した点は「主体性を持つ」ことです。以前の私は、他の人に頼まれてから行動することが多く、結果、消極的になってしまい、自分の意見をなかなか表現することができませんでした。この短所を克服し、主体性を持って行動することを目標に、研修に取り組みました。

講義では、内容を単にメモするだけでなく、分からないことや疑問に思ったことがあれば、授業後に講師に質問しに行くようにしました。この行動により、講義の内容を深く理解するだけでなく、自分の研究に役立つ新しい情報を得ることができました。グループワークにおいても、教室でパソコンを操作しているだけでは分からない情報や視点があると感じ、頻繁に外に出ていきました。その結果、観光客の方々と会話する機会を得ることができ、プロジェクトの内容を深めることができました。また、積極的に意見を発言するよう努力しました。普段、私は発言し終わった後、友達や先生に結局何が言いたいのか分からないと言われることがよくあります。なので、意見を相手に的確に伝えるために、意見を発言する前に自分の中で一回考えてから発言するように心がけていました。今回の研修で発言する機会を多く作ったことで、練習する機会が増えました。しかし、今回の研修でもう一度説明を求められる場面が何度かありました。自分から行動したことで、今後改善していかなければならない点にも気づくことができました。

今回の研修で、主体性がないということは自分の可能性を狭めてしまうことにつながるということを学びました。主体性を持って行動したことによって、新たな経験や知識を得ることができ、達成感も大きかったです。今後も、主体性を持って様々なことにチャレンジしていきたいと思えます。